

# 黒木西

黒木西小

学校だより

文責:校長 齋藤英義

令和3年8月6日(金)

NO.09

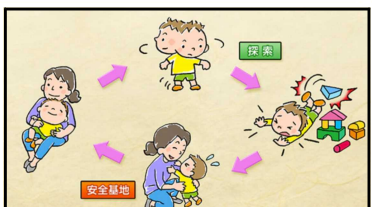


## 「子どもの脳」と守れ!

8月6日は、初めて戦争で原爆が使われた日として、決して忘れてはならない日です。

そして、私たちは戦争を忘れずに次の世代へ語り継ぎ、再び悲惨な戦争が起きないように、みんなで力を合わせて平和を守っていく責任があると思っています。

そこで、本日の登校日には「平和学習」として、学年に応じた指導を行いました。子どもたちには、平和であることに感謝し、平和を大切にしようとする気持ち、少しでも芽生えてくれることを期待しております。



さらにマルチトリートメントを受けている多くの子どもたちに共通の症状として「愛着障害」があげられます。愛着障害とは、養育者である親との心理的な絆(＝愛着)が築けていない状態のときに出てくる症状。正常な愛着形成ができた子どもは、外の世界に探索行動に出たとき、不安があるとすぐに「安全基地」である親の元に戻って不安をおさめ、再び外の世界に探索に出るというサイクルを繰り返しながら行動範囲を広げ、成長していきます。

しかし、愛着形成ができていないと親が安全基地となり得ないため、子どもは不安を収めることができず、精神的に不安定な状態になってしまうのです。その結果、暴れる、問題行動を繰り返す、不安や感情をコントロールすることが苦手になるといった特徴が現れます。

マルチトリートメントが子どもに与えるマイナスの影響は、「愛着障害」だけではなく、「親子関係の悪化」「精神的な問題(悲しみ・恐れ・不安)」「反社会的な行動(いじめ・先生に反抗・うそ)」「強い攻撃性」の4つの項目すべてで望ましくない影響が出る

ことが分かりました。この結果から分かるように、体罰は「百害あって一利なし」と言えそうです。しかし、傷ついた子どもたちと向き合う医師たちは、子どもの脳はダメージを受けても回復可能であると訴えています。「不適切な扱い方を受けたからといって、終わりではない」。治療を重ねれば、ダメージを修復したり、なかったことにできるのですから」とのこと。



では、どんな治療なのか：専門家が行う治療プログラムでは、「子どもが安心を感じられる体験を重ねること」、「つまり「安心感」を与えることを大事にしています。例えば、抱きしめられるときの安心感が子どもの脳と心と体の発達を活性化するのでこのこと。つまり、愛されている実感を記憶し、心身の機能を上げるためには、心を込めた「だっこ」が大事だとのこと。

最後に、次のようなことも訴えてありました。「そもそも人間は、狩猟生活を送っていた太古の時代から共同して子どもを育ててきました。しかし核家族化が進んでいる今、『一人で完璧な子育てをしなければいけない』という迷信が広がっています。マルチトリートメントを繰り返す親は頼れる人がおらず、相当ストレスをためていることが多い。早い時期にそのストレスに周りが気づき、サポートすることがとても大事です」とのこと。

今こそ**地域**の力が鍵となりそうです。



## マルチトリートメント

先日、「学校現場でよくある『イライラ』をうまくコントロールする方法」という研修会に参加しました。「怒り」とは何なのか、「怒り」のメカニズムは、そして、「怒り」との上手な付き合い方とは：ということなどで面白いお話を聞くことができました。その中で、是非職員にも伝えたいと思うことがあり、簡単にまとめましたので、保護者・地域の方にもお便りをもとにお伝えさせていただきます。

しつけのために体罰を与える、つい感情的になって子どもに暴言をぶつける、子どもの前で激しい夫婦げんかをする…。これらは「マルチトリートメント」と呼ばれる行為で、「**不適切な扱い方**」という意味だそう。そして、これらの行為が、子どもの脳に深刻なダメージを与えている可能性が脳科学の研究で明らかになってきました。

どんなダメージかという点、脳の特定の部位に変形が見られることが分かったのです。この変形のせいで、うつ病の一種である気分障害という症状が出たり、視覚的な記憶力や学習能力にマイナスの影響が出ていると考えられます。このような影響は、一回軽くちよっとお尻をたたいたからといって出るとは言えません。しかし、つい感情に任せて子どもを叩いたり怒鳴ったりすることが慢性的に続くと、脳にも影響が出てくる恐れがあるそうです。

